平成 30 年度

講 義 要 項

心理学研究科臨床心理学専攻

修 士 課 程

埼玉学園大学大学院

目　次

臨床心理学特論Ⅰ［小玉　正博］----------1
臨床心理学特論Ⅱ［佐々木美恵］----------2
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）［小山　　望］----------3
臨床心理面接特論Ⅱ［杉山　雅宏］----------4
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）［佐々木美恵］----------5
臨床心理査定演習Ⅱ［佐々木美恵］----------6
臨床心理基礎実習Ⅰ［小玉・小山・藤枝］----------7
臨床心理基礎実習Ⅱ［杉山・佐々木・藤原］----------8
臨床心理実習［小玉・小山・藤枝・杉山・羽鳥・佐々木・藤原］----------9
臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）［羽鳥　健司・泉水　紀彦］----------10
データ解析法特論［泉水　紀彦］----------11
臨床心理学研究法特論［小玉　正博］----------12
教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）［尾形　和男］----------13
発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）［藤原　健志］----------14
人間関係学特論［小山　　望］----------15
心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）［山本　晴義］----------16
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）［柴田　　勲］----------17
犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）［古曳　牧人］----------18
健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）［羽鳥　健司］----------19
心理療法特論［羽鳥　健司］----------20
障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）［丹羽健太郎］----------21
学校臨床心理学特論［杉山　雅宏］----------22
グループ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）［藤枝　静暁］----------23
産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）［古澤　照幸］----------24

特別課題研究Ⅰ［小玉　正博］----------25
特別課題研究Ⅰ［小山　　望］----------26
特別課題研究Ⅰ［杉山　雅宏］----------27
特別課題研究Ⅰ［藤枝　静暁］----------28
特別課題研究Ⅰ［古澤　照幸］----------29
特別課題研究Ⅰ［佐々木美恵］----------30
特別課題研究Ⅰ［羽鳥　健司］----------31

特別課題研究Ⅱ［小玉　正博］----------32
特別課題研究Ⅱ［小山　　望］----------33
特別課題研究Ⅱ［杉山　雅宏］----------34
特別課題研究Ⅱ［藤枝　静暁］----------35
特別課題研究Ⅱ［古澤　照幸］----------36
特別課題研究Ⅱ［佐々木美恵］----------37
特別課題研究Ⅱ［羽鳥　健司］----------38

臨床心理学特論Ⅰ　　小玉　正博

授業概要

心理的援助を展開する上で求められる臨床心理学的な考え方や知識、技術について学ぶことを目的とする。具体的には、心理専門職が国家資格化された今、理解すべき臨床心理学の主要な課題やトピックスを取り上げる。また、そこから浮かび上がる臨床心理学に内在する問題点や今日的課題、今後の方向性などの検討を通して、高度な心理専門職者として期待される役割、期待される専門性と倫理、方法論を明らかにし、それらの理解と知識と態度の習得を目指した講義を行う。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：本講義の目的と意義、進め方、到達点について
第 2 回	心理的支援をめぐる社会的状況と課題－ヘルスケアシステムにおける位置づけ
第 3 回	心理専門職としてのキャリア形成
第 4 回	治療構造論：心理学的支援におけるケースマネジメント、治療契約、法的責任
第 5 回	治療構造論：受容と納得の統合
第 6 回	治療関係の構築：かかわりの構造と援助の過程
第 7 回	治療関係の構築：変化と抵抗を扱う技法と態度
第 8 回	失敗事例から学ぶこと
第 9 回	心理専門職に必要な資質と能力
第 10 回	事例研究とスーパービジョンの意義
第 11 回	心理専門職における職業倫理：「クライエント中心主義」の視点から
第 12 回	心理的援助を展開する上での制約と限界
第 13 回	地域支援の考え方と課題
第 14 回	隣接職種との連携と協働のあり方：チーム援助での役割
第 15 回	授業のまとめ
第 16 回	試験

到達目標

1．臨床心理士あるいは公認心理師の業務と活動の実際を理解し、その専門性と倫理について理解できる。
2．臨床心理士あるいは公認心理師として様々な心理臨床の現場とその実践の独自性について説明できる。
3．心理専門職者として人々の福祉のために活躍・貢献するという高い意識を醸成する。

履修上の注意

1．授業の中で紹介する参考文献等を主体的に自学自習し、問題意識を深めること。
2．講義に際しては積極的に発言し、教員との意見交換を行い、受講生同士の相互理解に務めること。
3．事例等を活用した倫理問題なども扱うので、受講者には高いプライバシー保護意識をもって受講すること。

予習復習

授業に際しては、予習のために事前に講義資料等を配布するので、それを学習した上で授業に臨むことを期待する。また、適宜在宅課題を課される。

評価方法

到達目標と関連して、授業中の発言と理解度(20%)、レポート(20%)、試験(60%)などから総合的に評価する。

テキスト

講義内容に関連した参考文献を適宜紹介し、ハンドアウト資料を配付する。
なお、全般的な参考資料として、「臨床心理学特論（放送大学教育振興会)」、「保健医療・福祉領域で働く新離職のための法律と倫理（ナカニシヤ出版)」を挙げておく。

臨床心理学特論Ⅱ　　佐々木　美恵

授業概要

心理援助の基本的考え方，構え，および基礎理論について，主に精神分析的，力動的オリエンテーションに基づいて講義する。授業の構成は，各回のテーマに沿った課題文献講読と授業内でのディスカッションとなる。

授業計画

到達目標

1．臨床心理士を志す者として，心理援助，心理面接についての各自の考えをもつ。
2．パーソナリティおよび内的世界について理解する視点をもつ。
3．精神分析的，力動的オリエンテーションに基づく心理面接の基礎理論を習得する。

第 1 回	心理援助の基本的考え方
第 2 回	内的世界の基礎理論①：フロイト
第 3 回	内的世界の基礎理論②：クライン
第 4 回	内的世界の基礎理論③：ビオン
第 5 回	パーソナリティの基礎理論①：構造論
第 6 回	パーソナリティの基礎理論②：自己愛，スキゾイド等
第 7 回	セラピスト-クライエント関係の理解①：転移
第 8 回	セラピスト-クライエント関係の理解②：逆転移
第 9 回	心理面接の展開①：傾聴，共感
第 10 回	心理面接の展開②：抵抗，防衛，ワークスルー
第 11 回	心理面接の展開③：解釈，介入
第 12 回	心理面接の展開④：中断，終結
第 13 回	子どものセラピー①：子どもの内的世界
第 14 回	子どものセラピー②：セッティング，技法，親支援
第 15 回	スーパーヴィジョン，トレーニング

履修上の注意

各回の課題文献を全員が読んだ上で授業に臨み，積極的に議論に参加すること。

評価方法

授業参加態度（積極的発言，意欲，主体性）30%，担当発表（資料作成，プレゼンテーション，質疑応答）30%，筆記試験 40%によって評価する。

テキスト

とくになし。適宜文献を紹介する。

臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）　　小山　望

授業概要

心理療法における各理論的立場について学ぶ。具体的には、クライエント中心療法、精神分析 的療法、対象関係論、分析的心理療法、遊戯療法、行動療法、認知行動療法、 ゲシュタルト療法、 交流分析、集団療法、自律訓練法などの諸理論について十分習得し、心理的援助を求めている人への症状や問題に対する各アプローチの相違点、類似点について理解する。受講者は各療法につ いての事前研究により担当部分のレポート発表および討論を行い、療法間の関連性についてより 洞察を深める。さらにこれらの討論を踏まえて、各療法を俯瞰する統合モデルに触れながら、ど のような対象に対して、どのようなアプローチが有効かについて、各技法の意義と限界を十分理解できるように進めたい。

授業計画

到達目標

１．心理臨床を支える主要な理論の人間観を理解し、その相違点と類似点について説明できる。
２．各理論による具体事例の学習を通してそれぞれの治療的かかわりの実際について理解する。
３．現代心理療法の潮流としての心理療法の統合モデルについて説明できる。

第 1 回	心理療法の各論における「比較の視点（相違点・類似点）
第 2 回	クライエント中心療法理論　C.R.ロジャーズ
第 3 回	パーソン・センタードアプローチ　C.R.ロジャーズ
第 4 回	精神分析理論および分析心理学　S.フロイトと C.G.ユング）
第 5 回	対象関係論　M.クライン、D.W ウィニコット
第 6 回	実存主義　V.フランクル
第 7 回	行動療法　HJ.アイゼンク
第 8 回	行動療法　Ｊ．ウォルピ
第 9 回	行動分析学　B.F.　スキナー
第 10 回	認知行動療法　A.T.ベック
第 11 回	ゲシュタルト療法　F.S.パールズ
第 12 回	交流分析　E.バーン
第 13 回	集団療法　サイコドラマ()　J.L.モレノ
第 14 回	集団療法　サイコドラマ(2)　J.L.モレノ
第 15 回	エンカウンター・グループ
第 16 回	現代心理療法　統合モデル

履修上の注意

各心理療法理論については、文献的な資料を基に、受講生がレポートを作成して発表する。。発表後は、討論を行い、各心理療法の理論について理解する
発表者は事前に資料を作成して、各心理療法の概要を説明できるようにしておく。

評価方法

発表資料の作成や提出したレポート内容などを総合的に評価する。

テキスト

とくになし。

臨床心理面接特論Ⅱ　　杉山　雅宏

授業概要

臨床心理面接は、臨床心理学的援助をおこなう際の基本的な関わりです。臨床心理学特論Ⅰで学んだ知識をさらに深め、臨床心理面接の基本を体験的に学び、面接者としての関わりを具体的に想起できるようになることを目的とします。

授業計画

到達目標

1. 臨床心理学の理論と心理療法のつながりを理解する。
2. 主な心理療法についての理論・技法・適用等を知り、臨床心理面接に求められる専門性の土台を形成する。

第 1 回	心理面接の構造と機能について
第 2 回	初回面接・面接の契約について
第 3 回	面接のプロセスについて（記録の書き方・中断と終結など）
第 4 回	連携と協働について
第 5 回	来談者中心療法 1（ロジャーズの理論に基づく面接過程）
第 6 回	来談者中心療法 2（技法の検討）
第 7 回	パーソンセンタード・アプローチ
第 8 回	行動論的アプローチ１　（行動査定、手続き、プロセスなど）
第 9 回	行動論的アプローチ 2（事例の検討）
第 10 回	グループアプローチ１　（エンカウンター・グループワークなど）
第 11 回	グループアプローチ 2　（適用について）
第 12 回	親子並行面接について
第 13 回	若者たちの心理療法（学生相談の事例から）
第 14 回	学校教師へのコンサルテーションについて
第 15 回	臨床心理的地域援助について
第 16 回	まとめ

履修上の注意

臨床心理面接に必要な基本概念について、受講者による発表、討論、場合によってはロールプレイを行う予定です。受講者各自が臨床心理面接を行う際の自身の課題を自覚し、能動的に講義に参加していただくことを期待しております。

評価方法

講義への参画度（発表・討論など）40%、課題レポート 60%、

テキスト

必要な資料は配布します。参考書は紹介します。

臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）　佐々木　美恵

授業概要

まず，心理実践における心理的アセスメントの意義について指導する。

本科目では知能検査を中心として取り上げ，テスターおよびテスティー体験，分析，結果解釈，報告書作成の一連のプロセスを通して，心理に関する相談，助言，指導等における心理的アセスメントの意義，理論と方法論について実践的に指導する。

授業計画

第1回	心理的アセスメントの意義とその限界
第2回	田中ビネー知能検査Ⅴ①：理論と実施法
第3回	田中ビネー知能検査Ⅴ②：結果の分析と解釈
第4回	田中ビネー知能検査Ⅴ③：履修生同士によるテスティー体験
第5回	田中ビネー知能検査Ⅴ④：心理検査報告書作成/個別指導Ⅰ
第6回	田中ビネー知能検査Ⅴ⑤：心理検査報告書作成/個別指導Ⅱ
第7回	田中ビネー知能検査Ⅴ⑥：検査結果報告における留意点
第8回	WISC-Ⅳ①：理論と実施法
第9回	WISC-Ⅳ②：結果の分析と解釈
第10回	WISC-Ⅳ③：履修生同士によるテスティー体験
第11回	WISC-Ⅳ④：心理検査報告書作成/個別指導Ⅰ
第12回	WISC-Ⅳ⑤：心理検査報告書作成/個別指導Ⅱ
第13回	WISC-Ⅳ⑥：心理検査報告書作成/個別指導Ⅲ
第14回	WISC-Ⅳ⑦：検査結果報告における留意点
第15回	振り返り（修得状況，今後の課題，疑問的整理）

到達目標

- 心理実践における心理的アセスメントの意義を理解する。
- 田中ビネー知能検査Ⅴ及びWISC-Ⅳの理論，方法論を修得する。
- 心理に関する相談，助言，指導等に役立つ心理検査報告書の作成技能と知識を修得する。

履修上の注意

授業内学習であることに十分配慮し，実質的な知能検査とはならないような工夫をもって指導するが，自らの知能査定に近い体験を伴うことを予め了解の上，授業に臨んでもらいたい。

評価方法

心理検査報告書の完成度50%，授業参加態度（積極的発言，意欲，主体性）50%によって評価する。

テキスト

使用しない。適宜資料を配布する。

臨床心理査定演習Ⅱ　　佐々木　美恵

授業概要

投影法パーソナリティ検査であるロールシャッハ・テストの理論および実施法，分析法，解釈法を学ぶ。受講生同士がテスターあるいはテスティーとなって，実際に演習によりロールシャッハ・テストとバウム・テストを実施する。その後個別指導を中心として，自らのテスティー体験データについて，心理検査報告書を作成する。それらすべてのプロセスを通して，ロールシャッハ・テストとバウム・テストのテスト・バッテリーによる心理査定を実践的に学ぶ。

授業計画

到達目標

1．ロールシャッハ・テストの実施法，分析法，解釈法を学ぶ。
2．バウム・テストとのテスト・バッテリーによるパーソナリティ検査の一連の流れを習得する。
3．有用な心理検査報告書の書き方を習得する。
4．パーソナリティを査定する上での基本的な倫理を体得する。

第 1 回	ロールシャッハ・テストによる心理査定の意義とその限界
第 2 回	実施，分析，解釈①：施行法
第 3 回	実施，分析，解釈②：分類の前提，反応領域の分類
第 4 回	実施，分析，解釈③：反応領域の分類
第 5 回	実施，分析，解釈④：反応決定因の分類
第 6 回	実施，分析，解釈⑤：反応決定因の分類，反応内容の分類，形態水準の評価
第 7 回	バウム・テストとのテスト・バッテリーによる実施法
第 8 回	分析，解釈の視点①：解釈の前提，意味づけ
第 9 回	分析，解釈の視点②：一般的記号の総合的解釈，継列分析
第 10 回	心理検査報告書作成/個別指導①：スコアリング確認と報告書案作成
第 11 回	心理検査報告書作成/個別指導②： 知的側面，情緒的側面，対人的側面，現実吟味力等各視点からの記載
第 12 回	心理検査報告書作成/個別指導③：力動的視点，継列分析からの記載
第 13 回	心理検査報告書作成/個別指導④：　パーソナリティの全体評価とその記載
第 14 回	心理検査報告書作成/個別指導⑤：心理検査報告書の仕上げ
第 15 回	心理検査報告書作成/個別指導⑥：結果フィードバックとその留意点

履修上の注意

あくまでも授業内学習であることに十分配慮した上で指導するが，自らのパーソナリティ査定体験を伴うことを予め了解の上，授業に臨んでもらいたい。

評価方法

心理検査報告書の完成度 50%，授業参加態度（積極的発言，意欲，主体性）50%によって評価する。

テキスト

「改訂　新･心理診断法　ロールシャッハ・テストの解説と研究」（金子書房）
「ロールシャッハ・テストの学習　片口法スコアリング入門」（金子書房）
その他，適宜テキストを紹介する。

臨床心理基礎実習Ⅰ　　小玉・小山・藤枝

授業概要

実習Ⅰでは、体験学習を通して臨床心理学的援助を効果的に行うための基礎的かかわり技術を身につけることを目的とする。ロールプレイを中心にして、コミュニケーションスキル、ヘルピングスキル等の諸技法における実践的な対応について指導する。

到達目標
１．対人援助職に求められる基礎的かかわり技術について理解できる。
２．対話場面においてコミュニケーションスキル、ヘルピングスキルを効果的に使うことができる。
３．援助者役割と被援助者役割を相互体験することにより、援助機能とその意味について理解する。

授業計画

第１回	オリエンテーション　基礎実習Ⅰの目的と意義、到達点について（全教員出席）臨床系教員の治療的立場と指導方針の説明 課題図書の紹介
第２回	(担当：小玉）マイクロカウンセリングの技法：その理論概説
第３回	(担当：小玉）マイクロ技法の実際：質問技法
第４回	(担当：小玉）マイクロ技法の実際：言いかえ技法と要約技法
第５回	(担当：小玉）マイクロ技法の実際：反映技法と焦点づけ技法
第６回	修士２年生による修士論文中間発表会
第７回	(担当：小山)ロールプレイングとは　理論と体験
第８回	(担当：小山)ロールプレイングによる不登校生徒の面接
第９回	(担当：小山)ロールプレインイグによる子どもとのプレイ
第10回	(担当：小山)ロールプレイングによる保護者の面接
第11回	ソーシャルスキルとは（担当：藤枝）
第12回	ソーシャルスキルを生かした受容的な聞き方演習(担当：藤枝)
第13回	ソーシャルスキルを生かした共感的な聞き方演習(担当：藤枝)
第14回	ソーシャルスキルを生かした話し方演習(担当：藤枝)
第15回	授業のまとめと総合評価（レポートと面接）

履修上の注意

１．本科目は、基本的に2コマ連続の実習形式で行われる。
２．ロールプレイは基本的にトライアド形式で行うので、自己都合による欠席は認められない。
諸般の事情により出席困難な場合は、事前に承諾を得ること。

評価方法

かかわり技術の習得を評価するために面接技術試験を行う。評価基準に満たない場合は再試験を行う。

テキスト

授業内容に関連した参考文献を適宜紹介するとともにハンドアウト資料を配付するが、事前学習と事後学習のために以下の文献を紹介する。

臨床心理基礎実習Ⅱ　　杉山・佐々木・藤原

授業概要

本科目では、「臨床心理基礎実習Ⅰ」に引き続き、相談業務に必要な知識と技術の向上を目指す。講義では、受理面接実施の方法や記録のまとめ方、治療契約とアセスメントの方法、危機への対応や援助における倫理的問題など、援助における諸問題について指導するとともに、関係者との協働や連携、子どもや保護者に対する援助の実際について理解を深めるような指導をする。また学内の臨床心理カウンセリングセンターでの相談業務に携わりながら、相談の流れと実際の面接の方法について指導する。

授業計画

【到達目標】

1. 臨床心理学的援助の専門家として必要な考え方やとらえ方を身につける。
2. インテーク、アセスメントを適切に実施し、記録をまとめることができる。
3. 子どもや保護者に対する援助の実際、実践上の課題について理解する
4. 臨床心理カウンセリングセンター業務に携わりながら、研修相談員としての態度と行動規範を理解して、遵守することができる。

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	外部機関との連携①
第 3 回	外部機関との連携②
第 4 回	援助者の倫理
第 5 回	センター管理運営①
第 6 回	センター管理運営②
第 7 回	インテーク面接の方法と留意点
第 8 回	アセスメント面接，治療契約の方法と留意点
第 9 回	心理的支援の応用的問題（危機介入等）
第 10 回	センター管理運営③
第 11 回	センター管理運営④
第 12 回	子どもと保護者に対する援助①（遊戯療法を中心に）
第 13 回	子どもと保護者に対する援助②（保護者面接とその方法）
第 14 回	子どもと保護者に対する援助③（ペアレント・トレーニングの理論と実践）
第 15 回	まとめ（振り返り，今後の実習に向けて）

履修上の注意

相談業務に必要な知識や相談技術の向上を目指す講義であることを自覚し、講義にのぞんでいただきたい。

評価方法

・授業への参加態度、課題レポートの内容を総合的に評価する

テキスト

・テキストは使用しない。必要な文献は適宜紹介する。

臨床心理実習　　小玉・小山・藤枝・杉山・佐々木・藤原

授業概要

本学の臨床心理カウンセリング・センターでの実習を通して、心理臨床における実践力を身につけることを目的とする。学内実習においては、相談研修生として心理カウンセリング・センター運営に参加し、受付業務や業務管理を行う。さらに、定例の事例会議への参加、受理面接および相談事例の陪席や観察、相談事例の担当、担当事例について個別および集団によるスーパービジョンなどを受ける。また、学外実習においては、協力施設等において相談面接の陪席、心理査定、事例研究会への参加、その他の心理臨床活動を行えるよう指導する。

授業計画

到達目標

1．相談研修員として相談活動の内容と実習の流れを理解し、心理カウンセリング・センターの運営に十分な役割を果たす。
2．相談研修員としての行動規範を遵守し、主体的に相談業務に携わることができる。
3．学外実習を通して心理臨床の実際に触れ、心理的支援者としての態度とスキルを養う。

※1 回あたり 2 コマ連続で行う。

回数	春期	秋期
第　1 回	臨床心理実習の意義	心理的支援者としての実習課題の確認
第　2 回	相談指導教員の役割とセンター運営の意味	学外実習：学校領域における活動報告
第　3 回	学内実習：相談研修員の役割と義務	学外実習：福祉領域における活動報告
第　4 回	学内実習：受理会議の進め方	学外実習：医療領域における活動報告
第　5 回	学内実習：事例報告および事例研究	中間報告①：学外実習における課題とその対応
第　6 回	事例会議：中断事例と終結の扱い方	学外実習：学校領域における活動報告
第　7 回	学外実習にむけての事前学習	学外実習：福祉領域における活動報告
第　8 回	学外実習：学校領域における活動報告	学外実習：医療領域における活動報告
第　9 回	学外実習：福祉領域における活動報告	中間報告②：学外実習における課題とその対応
第 10 回	学外実習：医療領域における活動報告	学外実習：学校領域における活動報告
第 11 回	学外実習における課題とその対応：中間報告	学外実習：福祉領域における活動報告
第 12 回	学外実習：学校領域における活動報告	学外実習：医療領域における活動報告
第 13 回	学外実習：福祉領域における活動報告	事例会議：実習生の役割と事例との関わり
第 14 回	学外実習：医療領域における活動報告	事例会議：臨床心理士と関連専門家との連携
第 15 回	学外実習の事後指導とまとめ	実習全体のまとめ

履修上の注意

1．自己都合による欠席は認められない。諸般の事情により出席困難な場合は、事前に申し出て承諾を得ること。
2．実習が円滑に実施できるように、研修員の相互理解、相互協力が求められる。
3．学外実習にあたっては、社会人としての礼節をもって施設訪問を行うこと。また、実習施設および担当指導者に敬意を払い、指導方針を遵守すること。
4．相談研修に関する個別のポートフォリオを作成し、研修レポートの記録内容に基づき指導が進められる。

評価方法

到達目標と照らし、相談研修生としての学内および学外実習への取り組み状況(40%)、受理会議およびケース会議への参加と発表(30%)、研修レポートの適切性(30%)などによって総合的に評価する。

テキスト

特に指定しない。実習過程において適宜資料等を配布する。

臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）　　羽鳥　健司・泉水　紀彦

授業概要

本実習では、臨床心理学的援助の実践的技能を習得することを目的として、学内外の実習施設において、各施設の実習指導者または実習担当者等の下で、次の 3 つの事項について見学・支援実践による実習を行う。①心理支援を要する者への(1)コミュニケーション、(2)心理検査、(3)心理面接、(4)地域支援、(5)理解とニーズの把握および支援計画の作成、(6)チームアプローチ、等の知識と技能の習得、②多職種連携、および地域連携、③公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解。

なお、学外実習の際には、事前指導を行い、実習によって何を習得できたのかを確認して今後の心理臨床活動に活かせるように事後指導を実施する。学外施設での実習は保健医療、福祉、教育、産業・労働の 4 分野のうち、保健医療分野を含めた 3 分野以上の施設にて行う。

授業計画

本実習では、各分野のうち、保健医療分野を含めた 3 分野以上の①実習に関する事前指導、②学内外における実習、③事後指導で構成される。事前指導と事後指導には、公認心理師として身につけておくべき職業倫理や法的知識の指導が含まれる。本実習では、合計で 450 時間以上の実習時間が求められる。

(1) 包括的事前指導：本実習の内容、全体のスケジュール、施設の概要、各分野の臨床において公認心理師に求められる役割と実践等について、各実習担当教員から説明を受ける。
(2) 学内施設実習事前指導：受理面接、カンファレンス資料の作成、ケース担当の心構え、ケース記録作成等についてガイダンスを行う。
(3) 学内施設実習①：大学附属臨床心理カウンセリングセンターにて電話受付業務を行う。
(4) 学内施設実習②：(1)～(3)を終えた者から開始する。ケースをスーパーヴァイザーの指導の下で担当する。またケース・カンファレンスで全教員から指導を受ける。
(5) 学外施設実習事前指導：各分野の現場での実習生の心構え、求められる役割、各施設の概要等について各実習担当教員から説明を受ける。
(6) 学外施設実習：保健医療分野の機関を含めた 3 分野以上の施設において実習を行う。その他領域での見学も実施する。
(7) 学外施設実習事後指導：各施設の実習担当者または各実習担当教員へ実習全体を通して学んだことを報告し、指導を受ける。
(8) 総括的事後指導：自身の実習内容を振り返り、実習生同士で学んだことを共有し、各担当教員から指導を受ける。

到達目標

1．心理支援の実践を行う施設における管理運営の知識、技能を習得する。
2．心理支援を必要とする者に対するアセスメントとそれに基づく心理支援の実践的技能を習得する。
3．多職種間、地域での連携におけるチームの一員として公認心理師が果たす役割、知識、技能を習得する。
4．公認心理師が遵守するべき職業倫理、法的義務、および現場での実際的な対応を習得する。

履修上の注意

1．本科目は公認心理師資格試験の受験資格に必要な科目である。
2．法令で義務付けられた実習時間確保のため、欠席、遅刻は原則として認められない。
3．実習指導マニュアルを熟読し、次週の基本的な流れと留意事項を理解して実習に臨むこと。
4．学外施設での実習にあたっては、社会人としての礼節をもって訪問すること。また、実習施設および実習指導者に敬意を払い、指導方針を遵守すること。
5．実習記録ノートを用いて自らの実習を随時振り返り、主体的に取り組むこと。

予習復習

配布されたマニュアルを熟読すると共に、各施設の概要を十分に調べること。漫然と過ごすのではなく目的をもって行動し、その達成度や学んだことを各回の終わりに振り返ること。

評価方法

到達目標と照らして、事前指導への取り組み、学内外実習での取り組み、実習記録ノートに基づく事後指導への取り組み、事後の総括的レポートの内容などによって総合的に評価する。

テキスト

テキストは指定しない。

データ解析法特論　　泉水　紀彦

授業概要

実証的な心理学研究を行う上で使用される統計の知識や分析法を学び、実際にコンピューターを操作し、統計のソフトウェアを使って分析できる能力が必要である。そのため、本講義では、心理統計法の理論背景を学び、より実践的で有益な心理統計手法を選択・実施できるようになることを目的とする。心理統計の手法を理解した上で、実際に Excel および SPSS などの統計ソフトウェアを操作し、心理学的統計処理を行えるように講義をする。

授業計画

到達目標

１．各心理統計に関する理論背景（統計的有意性、検定の原理、標本分布）と方法を理解する。

２．適切な分析方法（$\chi 2$検定、 t検定、F検定、相関分析、因子分析、回帰分析など）を選択することができる。

３．Excel ソフトを用いて統計処理を行うことができる。

４．統計ソフト SPSS を用いて統計処理を行うことができる。

第 1 回	オリエンテーション・心理統計法の主な理論
第 2 回	記述統計値算出のねらい
第 3 回	名義変数の分析：カイ二乗検定の理論と実践
第 4 回	変数間の関連を知る：相関分析の理論と実践
第 5 回	平均値の比較：t検定
第 6 回	1 要因の分散分析
第 7 回	2 要因の分散分析
第 8 回	2 要因の分散分析：交互作用の分析
第 9 回	主な多変量解析の種類とその目的
第 10 回	因子分析 1
第 11 回	因子分析 2
第 12 回	信頼性・妥当性の検討
第 13 回	単回帰分析と重回帰分析
第 14 回	重回帰分析
第 15 回	重回帰分析・共分散構造分析

履修上の注意

各回の授業で扱う内容について、教科書・参考書の対応する箇所を読んでくることが望ましい。なお、授業で出された課題を復習し、統計手法の習熟に努めること。

評価方法

到達目標と関連して、授業中の発言などの参加度と理解度(40%)、提出されたレポート内容(60%) などを通して総合的に評価する。

テキスト

小塩真司　(2011). SPSS と Amos による心理・調査データ解析 ： 因子分析・共分散構造分析まで　東京図書

臨床心理学研究法特論　　小玉　正博

授業概要

臨床心理学研究は、現在、その理念も方法も多様であり、それぞれが独自な特徴をもちながら研究領域全体の一部を担っているが、未だ多くの課題を抱えている。本講義では、臨床心理学の理念と研究方法について、その多様性と可能性を検討しながら、研究の目的と方法、一般的プロセスを概観する。次に、研究テーマによる量的方法と質的方法あるいはミックス法の適切性の識別・選択と研究デザイン・展開方法について相互に吟味・検討する。受講者の必要に応じながら、いわゆる質的方法を中心に、事例研究や実践活動の評価研究の方法などについても理解を深めたい。それによって、各自の修士論文作成と、その後の専門職として要請される課題への研究的な取り組みに資することを目指す。

授業計画

到達目標

1．臨床心理学における研究の視点と目的、方法の多様性を知り、研究者の個別性・独自性の重要性を理解する。

2．実践の場における研究の必然性と必要性を理解し、臨床的研究デザイン（目的の立て方、方法の選択、検証の仕方）を策定することができる。

3．臨床心理学の研究目的と方法に照らして量的研究法と質的研究法の特徴を十分に理解し、適切に利用することができる。

4．「心理臨床の実践」と「実践しながらの臨床心理的研究」の関連性と意義を理解し、事例性を尊重した実践研究の態度を習得する。

第 1 回	臨床心理学研究の理念と研究方法の多様性
第 2 回	臨床心理学の諸領域と研究方法
第 3 回	臨床心理学の研究プロセス
第 4 回	研究テーマと研究方法（1）
第 5 回	研究テーマと研究方法（2）
第 6 回	臨床心理学の研究方法（1）
第 6 回	臨床心理学の研究方法（2）
第 7 回	量的研究のデザインと展開：具体的研究例を用いて
第 8 回	質的研究のデザインと展開：具体的研究例を用いて
第 9 回	いわゆるミックス法について
第 10 回	臨床心理学の研究方法（3）
第 11 回	臨床心理学の研究方法（4）
第 12 回	臨床心理学の研究方法（5）
第 13 回	臨床心理学における評価（効果）研究
第 14 回	臨床心理学における研究の倫理
第 15 回	臨床心理学研究法のまとめ、各自の今後の見通しと課題

履修上の注意

受講者の積極的で主体的な参加を前提に講義が進められる。そのためにも、各自が、自分の興味・関心を模索しながら研究テーマを見出しそれを深めようとすることが重要である。また、参考文献を通じて研究方法の全体像を把握しながら、自分の研究テーマにとって　　適切で有効な方法を探り、具体的に修士論文作成へ向けて準備を進めることが期待される。

評価方法

授業での積極的な取り組み、すなわち、各自で分担して報告する資料の熟読・吟味と　　発表の準備・成果、討論への参加の程度（50%）、期末のレポート課題への取り組みと完成度（50%）によって総合的に評価する。

テキスト

テキストは定めず、抄読用文献・参考文献などを必要に応じて、その都度指示する。

教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）　尾形　和男

授業概要

教育に関わる諸問題についてその背景にある原因とそれに対する支援の在り方について理解を深めることを目的とする。本講義では，いじめ，不登校，学級経営，学習の動機づけ，教師のストレスなど幾つか絞りその現状とその背景にある教育現場や家庭内に潜む要因について文献や事例により確認する。このような取り組みを通して教育問題について心理学的な視点に基づく見方と深い洞察力を養い，背景にある問題の要因を探る能力を高める。そして問題解決に向けて適切な支援を行うことが出来る能力を身につけることを目的として講義を進める。

授業計画

第 1 回	教育心理学に関わる現代的諸問題とその見方
第 2 回	心理学各領域の観点とその統合の必要性
第 3 回	いじめを捉える(1) いじめの現状とその原因，対応策について概観する
第 4 回	いじめを捉える(2) いじめの原因について事例を通して洞察する
第 5 回	いじめを捉える(3) 被害者への支援，加害者への適切な指導について考える
第 6 回	学級経営と教師(1) ①教師に求められるもの ②学級集団の特性とその変化
第 7 回	学級経営と教師(2) ①いじめの原因と発生を防ぐクラス経営と教師への支援
第 8 回	学級経営と教師(3) ①学級崩壊とその原因　②防止と教師の指導の在り方
第 9 回	学習の動機づけと動機づけ形成(1) 内発的動機づけと自己調整学習
第 10 回	学習の動機づけと動機づけ形成(2) 学業不振と不登校への対応
第 11 回	学級不適応を考える(1) 学級不適応児の原因と支援
第 12 回	学級不適応を考える(2) 家庭との連携による支援
第 13 回	教師の抱える問題(1) 多忙とストレスと健康
第 14 回	教師の抱える問題(2) ワーク・ライフ・バランスとストレスへの支援
第 15 回	新しい話題提供
第 16 回	試験

到達目標

1. 教育心理学に関する基本的な理論を理解する。
2. 教育に関わる諸問題について，問題の本質を理解する。
3. 教育に関連する問題の背景について，その原因について洞察力を深める。
4. 問題に対する適切な支援の在り方を考え，取り組む計画を立てる。

履修上の注意

内容的に最新の知識を扱うので，自ら関心を持って文献を調べるなど，積極的に参加すること。
また，日常報道されている教育に関する諸問題について常に関心を持つこと。

評価方法

毎回の受講姿勢(積極性，発表の姿勢)，レポート，試験などを加味して総合的に評価する。

テキスト

特に使用しないが，その都度参考図書を紹介する。

発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）　藤原健志

授業概要

発達心理学において扱われてきたテーマは心理学全般にわたり、その理解と探求ならびに応用は専門職として活躍する上で不可欠である。本講義では、下記に挙げる各テーマについて、発達心理学に関連する諸理論ならびに諸研究を紹介するとともに、臨床現場における諸理論の応用を通じた心理援助の実際について考察を深める。また各テーマに関連する研究論文や資料等の購読と内容のディスカッション、内容に関連するレポート作成等を通じて、研究方法の理解をすすめ、論文作成に関する基本的スキルを獲得することを目的とする。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	発達課題
第 3 回	遺伝と環境
第 4 回	愛着と親子関係
第 5 回	遊びの発達
第 6 回	自己概念の発達
第 7 回	意欲の発達
第 8 回	自己制御の発達
第 9 回	パーソナリティの発達
第 10 回	知覚の発達
第 11 回	知的機能の発達
第 12 回	社会性の発達
第 13 回	道徳性の発達
第 14 回	感情の発達
第 15 回	まとめと総括

履修上の注意

・各回で取り扱われる内容のキーワードを事前に提供するので、キーワードを中心に十分な予習を行うこと。
・本講義はワークとディスカッションを中心に行われることを了解した上で受講すること。
・文献購読やワーク、ディスカッション等を通じて、自身の研究に利用できる研究方法や理論を発見できるよう心がけること。
・本科目は公認心理師になるために必要な科目（公認心理師法施行規則第 2 条の三：教育分野に関する理論と支援の展開）に対応している。

評価方法

・講義中の課題やディスカッションに対する取り組み状況(30%)およびレポートの成績(70%)を総合して評価する。

テキスト

・特に不要であるが、すでに所有している関連書籍があれば、講義時に持参すること。
・必要に応じて、適宜講師より資料を配布する。

人間関係学特論　　小山　望

授業概要

人間関係の発達は、生命の誕生に始まり、乳幼児期から老年期の各発達段階における人間関係の様相について、事例やエピ―ソードを含め体験的に理解する。人間関係の形成や心理的援助についてロールプレイングを通じて体験的に学ぶ。

教育・医療・福祉などの各分野における心理職の人間関係の支援について理解する

授業計画

到達目標

１．人間関係学の基礎理論や人間関係の発達的側面を理解する

２．人間観関係の支援の方法として、グループワークやロールプレイングを通じて人間関係づくりのための支援方法を習得する

第 1 回	人間関係の発達、エリクソンの心理社会的発達理論
第 2 回	エリクソンの心理社会的発達理論
第 3 回	乳幼児の人間関係のエピソード的理解
第 4 回	学童期の人間関係のエピソード的理解
第 5 回	青年期前期の人間関係のエピソード的理解
第 6 回	青年期後期の人間関係のエピソード的理解
第 7 回	成人人間関係のエピソード的理解期の
第 8 回	職場での人間関係のエピソード的理解
第 9 回	医療分野における人間関係的支援
第 10 回	教育分野における人間関係的支援
第 11 回	福祉分野における人間関係的支援
第 12 回	人間関係の改善に関する理論（１）
第 13 回	人間関係の改善に関する理論（２）
第 14 回	人間関係の改善に関する理論（３）
第 15 回	被災地における人間関係の支援
第 16 回	地域社会における人間関係づくり

履修上の注意

文献学習だけでなく、体験的な学習も行うので、積極的な参加が望ましい

評価方法

授業中の態度、レポートの総合的な評価にする

テキスト

適宜資料を配布する。

「人間関係ハンドブック」日本人間関係学会編　福村出版

心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）　山本　晴義

授業概要

臨床心理士やカウンセラーに必要な心身医学の主要な知識について理解を深める。

主要な精神症状と問題行動、精神疾患について講義する。さらに、心身医学と産業精神保健の２テーマについて学習する。講義による知識の習得だけでなく、事例検討を通して、臨床で役立つ実力を養う。心療内科外来診療の陪席実習は、医療の現場を紹介する中で、マンツーマンで実地指導する。毎回、メール相談事例を提出し、回答を考える。カウンセラーとしてのセンスを養うよう講義する。

授業計画

到達目標

１．心身医学の中心的な考えについて理解する。
２．ストレス関連疾患に対する病態の把握と具体的な援助技法について説明できる。
３．産業精神保健におけるストレス理論を理解し、その適切な臨床応用を考えることが出来る。
４．講義とメール相談、陪席等を通して、臨床心理士として将来役立つ心身医学と産業精神保健の知識と技術を修得する。

第　1 回	講義ガイダンス　メール相談の実際
第　2 回	心身医学と精神医学の関連性
第　3 回	心身医学（１）心身医学の概念、専門領域の発展
第　4 回	心身医学（２）心身医学の対象、心身相関のメカニズム
第　5 回	心身医学（３）心身症における治療法
第　6 回	産業精神保健（１）職場のメンタルヘルスの現状と課題
第　7 回	産業精神保健（２）職業性ストレスモデル
第　8 回	心療内科外来陪席実習（１）精神科と心療内科とメンタルヘルスセンター
第　9 回	心療内科外来陪席実習（２）気づきとセルフコントロール
第 10 回	心療内科外来陪席実習（３）ライフスタイルとサポーター
第 11 回	心療内科外来陪席実習（４）全人的医療
第 12 回	心療内科外来陪席実習（５）治療的自己の形成
第 13 回	心療内科外来陪席実習（６）勤労者医療（働くことの意味）
第 14 回	心療内科外来陪席実習（７）予防医療（一次予防、二次予防、三次予防）
第 15 回	まとめ

履修上の注意

１．授業の中で何を学んだかを毎回復習レポートで確認するので、目的意識を持って授業に取り組むことを期待する。
２．毎回提示するメール相談事例への回答を通して臨床的感性を高めることを期待する。

評価方法

１．授業の中で展開される質疑応答の様子、提出したレポートの内容などから総合的に評価する。
２．受講生自身のメンタルヘルスに関するセルフケアへの配慮状況も評価の一つとなる。
３．メール相談に対する回答内容を踏まえて、心理的援助者としての実践能力と態度も評価する。

テキスト

参考文献・DVD として、山本・曽田（共著）「メンタルヘルス対策の本」（労務行政）、桃谷・山本（共著）「心とからだの健康教室」（新興医学出版社）、山本・江花「メンタルヘルス・セルフチェック」（ぎょうせい）、「Dr.山本晴義の実戦！心療内科」（DVD2 巻、ケアネット）、山本（監修）「元気な職場をつくるメンタルヘルス」（DVD 全 10 巻、アスパクリエイト）他

精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)　柴田　勲

授業概要

精神医学における主な精神障害の概念、治療的な面接法、薬物療法など、精神医学全般にわたる講義を行う。それを踏まえて精神医学の中でも臨床上特に重要な位置を占める統合失調症、うつ病、認知症を中心に、実際の臨床場面で患者・家族にどのように接すればよいかという観点から、精神疾患に関する実践的な知識や対応能力が身に付くように講義する。

授業計画

到達目標

１．精神医学の中心概念について深く理解する。
２．精神医学的な面接法や精神療法について深く理解できる。
３．臨床上特に重要な精神障害についての理解を深め、実践的な対応能力を習得できる。
４．社会や文化と精神医学の関わりを幅広く理解できる。

第 1 回	神経系のの解剖、情報伝達と機能について
第 2 回	精神障害の概要－診断基準－
第 3 回	精神保健福祉法について
第 4 回	統合失調症の症状と経過
第 5 回	統合失調症の治療
第 6 回	統合失調症の事例検討
第 7 回	うつ病・躁うつ病の症状と経過
第 8 回	うつ病・躁うつ病の治療
第 9 回	認知行動療法の実践
第 10 回	うつ病・躁うつ病の事例検討
第 11 回	認知症の症状と経過
第 12 回	認知症の治療
第 13 回	認知症の事例検討
第 14 回	社会環境の変化と精神疾患の関係について
第 15 回	精神医学特論のまとめ

履修上の注意

１．各自が臨床的・実践的な関心や問題意識をもって授業に出席するとともに、関連領域の書籍や論文を自発的に読み進むことが望ましい。
２．講義に際しては、様々な臨床場面を想定して、実際にどのように患者・家族に対応したらよいかという事例的な検討が頻回になされるので、積極的に参加・発言する姿勢が期待される。

評価方法

到達目標と関連して、授業中の発言などの参加度と理解度(40%)、提出されたレポート内容（60%）などを通して総合的に評価する。

テキスト

DSM5: 精神障害/疾患の診断・統計マニュアル　第５版
講義内容に関連した参考文献や資料をその都度紹介・配布する。

犯罪・非行心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)　古曳　牧人

授業概要

この講義では、公認心理師として司法・犯罪分野において業務を行うことを念頭に、業務を行うに当たって必要な各種の心理学的理論や研究について解説するとともに、特にアセスメントと援助を中心として、司法・犯罪分野における心理職の実践がどのように行われているか説明する。

なお、この科目は、公認心理師受験に必要な科目である。

授業計画

到達目標

1　公認心理師として、司法・犯罪の分野で業務を行う上で必要な知識を身に付ける。

2　司法・犯罪領域における心理職の実践を理解する。

第 1 回	犯罪・非行心理学の特徴
第 2 回	刑事司法制度と犯罪・非行の現状
第 3 回	司法・犯罪領域における心理職とその役割
第 4 回	犯罪・非行に関する心理学的理論
第 5 回	再犯・再非行要因に関する研究
第 6 回	犯罪・司法分野におけるリスクアセスメント
第 7 回	反社会性パーソナリティ障害と素行症
第 8 回	家庭環境の影響
第 9 回	知能、パーソナリティ特性の査定
第 10 回	犯罪者、非行のある少年の査定の実際
第 11 回	少年院における教育の実際
第 12 回	刑事施設における教育の実際
第 13 回	依存・嗜癖
第 14 回	リラプス・プリベンション
第 15 回	まとめ：犯罪・非行心理学の課題

履修上の注意

1　授業で紹介された文献、参考図書等を用いて、予習、復習に努め、問題意識を深めること。

2　講義においては、積極的に質問や教員との意見交換を行うことが期待される。

評価方法

レポートの内容 70%、授業における積極性 30%の割合を基本として、総合的に評価する。

テキスト

テキストは指定しません。資料は必要に応じて配付します。

参考図書：「犯罪心理学　行動科学のアプローチ」　C.R.バートル他　北大路書房、「犯罪心理学事典」日本犯罪心理学会編　丸善出版

健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）　羽鳥健司

授業概要

本講義では、心身の健康に対する心理学的な支援方法について修得することを目的とする。具体的には、健康観の歴史的推移や、急性疾患から慢性疾患へ疾病構造が変化したことによる予防の必要性と重要性、健康と疾病の生物医学モデルと生物心理社会モデル、プライマリケア等に関する理論を理解する。その上で各疾病の予防、治療、寛解維持に関与する心理学的な防御因子や危険因子を理解し、心身の健康に関する心理教育と理論と方法を修得する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：授業の方針と受講者の心得について
第 2 回	健康心理学の歴史
第 3 回	健康的な認知と行動の心理教育
第 4 回	感情と健康～怒り、うつ、不安について～
第 5 回	心的外傷体験と健康
第 6 回	心臓疾患者の健康に関する教育の理論
第 7 回	心臓疾患者の健康に関する教育の実践
第 8 回	血液透析患者の健康に関する教育の理論
第 9 回	血液透析患者の健康に関する教育の実践
第 10 回	喫煙者の健康に関する教育の理論と実践
第 11 回	飲酒者の健康に関する教育の理論と実践
第 12 回	不眠症者に対する健康教育の理論と実践
第 13 回	がん患者に対する健康心理学的援助の理論と実践
第 14 回	女性特有の疾患に対する健康心理学的援助の理論と実践
第 15 回	糖尿病者への健康心理学的援助の理論と実践
第 16 回	期末試験

到達目標

１．心身の健康教育に関する理論を修得する。
２．心身の健康教育に関する実際の方法を学修する。

履修上の注意

１．本講義は公認心理師を目指す場合の必須科目であることを十分理解した上で履修してください。
２．事例等を活用した講義を行います。

予習復習

適宜参考図書等を紹介しますので、各自で発展的な学習を進めることを期待します。

評価方法

成績評価は、中間評価 40%、学期末試験 40%、授業内レポート 10%、授業への積極的参加 10%

テキスト

特に指定しません。
参考書として「保健と健康の心理学　保健と健康の心理学　ポジティブヘルスの実現」（ナカニシヤ出版）、「保健と健康の心理学　臨床健康心理学」を挙げます。

心理療法特論　　羽鳥　健司

授業概要

心理療法の技法には様々なものがあるが、中でも欧米では認知行動療法が最も広く知られている。日本でも認知行動療法は注目されてきており、様々な疾患や生活習慣等に対して高い効果があるという多くのエビデンスが示されている。本講義では、認知行動療法の基本的な考え方や、実施するために必要な実践的な基礎的スキルの習得を目的とする。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	認知行動療法で扱う「心」の要素
第 3 回	治療的援助の順序
第 4 回	共感技法
第 5 回	情報を得るための質問技法と誘導するための質問技法
第 6 回	自動思考、条件信念、中核信念
第 7 回	心理教育
第 8 回	事例定式化
第 9 回	目標設定
第 10 回	週間活動記録と個人実験
第 11 回	問題解決技法
第 12 回	階層表の作り方
第 13 回	認知再構成
第 14 回	全技法を使ったロールプレイ
第 15 回	まとめ
第 16 回	レポート

履修上の注意

ガイダンスに出席しなかった場合は受講を認めない。また、ガイダンスの時に伝える約束事を必ず守る事。自己都合による欠席、または無断欠席のいずれかが一度でもあった場合は、それ以降の受講を認めない。

評価方法

授業内での理解度、参加度、提出されたレポート内容等によって総合的に評価する。

テキスト

資料を配布する。

障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）　丹羽　健太郎

授業概要

本講義では、「公認心理師」として福祉分野で働く時に必要な知識である、1）身体障害、知的障害及び精神障害の概要と 2）障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について理解することを目標に講義します。各障害について理解するために、障害の定義（概念）を明確にし、状態や症状についてのアセスメント方法を講義します。その上で、社会生活を送る中で生じる障害特有の問題と、その解決のための心理的援助の実践について講義します。

授業計画

到達目標

1. 各障害の定義（概念）を理解し、その状態や症状を説明できる。
2. 状態や症状に対するアセスメントの方法を述べることができる。
3. 日常生活で生じる各障害特有の問題を説明できる。
4. 日常生活で生じる問題に対する心理学的支援について述べることができる。

第 1 回	ガイダンス：履修にあたっての諸注意等
第 2 回	“障害”という概念の理解
第 3 回	国際生活機能分類（ICF）の理解
第 4 回	知的障害の理解
第 5 回	知的障害の心理社会的課題と支援
第 6 回	精神障害の理解と心理的支援（１）自閉スペクトラム症
第 7 回	精神障害の理解と心理的支援（２）注意欠如・多動症
第 8 回	精神障害の理解と心理的支援（３）限局性学習症
第 9 回	精神障害の理解と心理的支援（４）コミュニケーション症群と場面緘黙
第 10 回	精神障害の理解と心理的支援（５）反応性アタッチメント障害、脱抑制型対人交流障害
第 11 回	身体障害の理解と心理的支援（１）肢体不自由
第 12 回	身体障害の理解と心理的支援（２）視覚障害
第 13 回	身体障害の理解と心理的支援（３）聴覚障害
第 14 回	健康障害の理解と心理的支援
第 15 回	重度・重複障害の理解と心理的支援
第 16 回	筆記試験

履修上の注意

1. 本講義は公認心理師を目指す場合の必修科目であることを十分理解した上で履修してください。
2. 講義の中では、障害をテーマに含む映画や漫画等のメディアの紹介等もしていきます。
   講義の中だけでなく、皆さんの日常や日常の隣にある障害や障害を持つ人々に対して意識を持って生活するようにしてください。

評価方法

成績は、定期試験６０％、授業内レポート４０％で評価します。

テキスト

授業では、各内容に沿って資料を配布します。学習を深める上で以下の書籍を参考図書とします（情報メディアセンターで閲覧可能）が、授業内においても随時紹介していく予定です。

・DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル　医学書院
・障害百科事典　日本特殊教育学会編

学校臨床心理学特論　　杉山　雅宏

授業概要

学校現場では、いじめ・不登校・非行など多岐にわたる課題があり実践的な課題の対応に迫られています。学校臨床心理学では、学校生活を送るすべての子どもの成長・発達への援助の在り方や、教師の専門性を尊重し、その専門性を充分に発揮できるような支援を考えていきます。

本講義では、学校臨床心理学の意義と役割を明らかにしたうえで、学校臨床心理学の現状について把握し、今後の活動の在り方を予防、支援、連携等の観点から検討していきます。特に、「いじめ」「不登校」「非行」等の学校で生じている問題を取り上げ、専門的な働きかけをする際に必要となる知識や技法が身につくようにしたいと思います。

授業計画

到達目標

1. 学校臨床心理学の理論と実践について理解する。
2. 学校の現状を理解し、支援できる知識を獲得する。
3. 子どもたちに対する支援を具体的に考えられるようにする。

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	学校臨床心理学とは
第 3 回	学校臨床心理の組織と運営
第 4 回	児童・生徒指導に活かす学校臨床心理学
第 5 回	教育相談に活かす学校臨床心理学
第 6 回	特別支援教育に活かす学校教育心理学
第 7 回	学校臨床における見立て・アセスメント
第 8 回	不登校の現状と支援の実際
第 9 回	いじめの現状と支援の実際
第 10 回	非行の現状と支援の実際
第 11 回	教師への支援（教師のメンタルヘルス・教師のバーンアウト）
第 12 回	教師とスクールカウンセラーとの連携
第 13 回	外部機関との連携
第 14 回	地域との連携
第 15 回	保護者との連携
第 16 回	まとめ

履修上の注意

学校関連の様々な問題に興味・関心を示し、どのように対応したらよいかということを積極的に考え、討論に参加する姿勢が望まれます。

評価方法

講義への参画度 40%、課題レポート 60%

テキスト

以下の文献を参考にしてください。

伊藤美奈子・相馬誠一編著『グラフィック学校臨床心理学』サイエンス社

伊藤美奈子・平野直己編『学校臨床心理学・入門』有斐閣アルマ

グループ・アプローチ特論
(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)

藤枝　静暁

授業概要

本授業の目標は、心理専門職者が行うグループ・アプローチがどのようなものであるかについて理解することである。新たに誕生した国家資格「公認心理師」がどのような分野で、どのようなグループに対して支援や援助を行うのかについて、具体例を取り上げながら講義する。具体的には、①深刻な病にある者、精神障害者、不登校児童生徒、育児不安と産後鬱病を患っている母親などとその家族における家族内のグループダイナミクスに焦点をあてた心理支援、②引きこもり、認知症などを患っている高齢者など地域に基づいた支援が必要な人たちへの心理的援助のあり方、③地域の学校や保育所、施設などに勤めている教職員への心理的援助などを取り上げる。授業では、テキストや資料の解説の他に、集団討論やロールプレイなどを行いながら、より実践的に学びを深めていく。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：授業の方針と受講者の心得について
第 2 回	講義：グループ・アプローチの歴史と現状
第 3 回	講義：不登校の子どもとその家族を対象としたグループ・アプローチの実際と課題
第 4 回	講義：貧困、経済的課題のある家族へのグループ・アプローチの実際と課題
第 5 回	講義：認知症などを患う高齢者とその家族へのグループ・アプローチの実際と課題
第 6 回	講義：地域における子育て支援を目的としたグループ・アプローチの実際と課題
第 7 回	講義：産後鬱の予防と回復を目的としたグループ・アプローチの実際と課題
第 8 回	講義：教師や保育者の支援を目的としたグループ・アプローチの実際と課題
第 9 回	講義：グループ・アプローチの技法①構成的グループ・エンカウンターの理論
第 10 回	演習：グループ・アプローチの技法①構成的グループ・エンカウンターの演習
第 11 回	講義：グループ・アプローチの技法②ソーシャルスキルトレーニングの理論
第 12 回	演習：グループ・アプローチの技法②ソーシャルスキルトレーニングの演習
第 13 回	講義：グループ・アプローチの技法③ピアサポートの理論
第 14 回	演習：グループ・アプローチの技法③ピアサポートの演習
第 15 回	全体のふり返りと質疑応答
第 16 回	期末試験

履修上の注意

１．本授業は公認心理師を目指す場合の必須科目です。
２．授業ではグループ・アプローチの事例等を取り上げます。その際、倫理上の配慮が発生しますので、受講者はしっかりとしたプライバシー保護の意識をもって受講に臨んでください。

評価方法

成績評価は、学期末試験 50%、授業内課題 30%、演習への参加態度 20%とします。

テキスト

高松　里(編集)　サポートグループの実践と展開をテキストとして使用する予定です。
初回授業で指示します。

産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）　古澤　照幸

授業概要

本授業において、産業・労働分野の「選抜」「能力開発」「アセスメントの検証」の 3 点を軸とする。受講者にもこれら 3 点を調べてもらい理解を深めてもらう。教員からの情報提供も行うが、選抜、能力開発についてはどのような方法が企業にとっても、選ばれる人々にとっても合理的で科学的な方法となるのか、積極的に検討してもらえたらと思う。またアセスメントの検証についても積極的にその方法も学んでもらえたらと考えている。

授業計画

到達目標

１．産業・組織心理学の基本的特徴を確認する。
２．どのような観点から「採用検査」「能力検査」が開発されるのかを理解する。
３．アセスメントの検証の方法を理解する。
４．産業・組織心理学におけるアセスメントの意義を理解する。

第 1 回	授業ガイダンス、産業・組織における「心理学」の意義を考える
第 2 回	採用選考の方法には何があるか
第 3 回	選抜のためのストレスマネジメント
第 4 回	管理者適性検査；課長になるために
第 5 回	アセスメントセンター方式；複数のアセスメント、評価者
第 6 回	多面観察評価；用途と活用
第 7 回	コンピテンシーモデル；活用法
第 8 回	キャリア総合評価；キャリア評価とは
第 9 回	人間関係能力；コミュニケーション能力
第 10 回	ストレス耐性検査；能力開発的な使用
第 11 回	アセスメントセンター方式；能力開発的な使用
第 12 回	多面観察評価；能力開発的な使用
第 13 回	評価者の能力；信頼性と妥当性
第 14 回	アセスメントと業績との関連
第 15 回	人事アセスメントの有効性；タレントマネジメント

履修上の注意

授業時に紹介する文献を十分に学習し、理解をしておくことが必要である。積極的に議論に参加し、受講者自身で授業を作る気持ちで臨むことを期待する。

評価方法

授業への積極的参加度、到達目標事項の各理解度、検討力を授業での発言、レポートによって判断し、評価を行う。

テキスト

授業時に、資料を毎回配布する。参考文献については、適宜、紹介する。

特別課題研究Ⅰ　　小玉　正博

授業概要

文献検索能力の開発、専門領域の最新知識および研究方法の習得。研究テーマの文献レビューおよび研究方法の吟味を行う。

引き続き討論を通して各自の研究テーマを深化し、中間発表に向けての研究計画の吟味、予備調査の実施、文献レビューの補強等を行い指導する。

授業計画

到達目標

1．各自の研究テーマに即した文献検索が適切にできる。
2．各自の研究テーマを先行研究と関連づけて、深めることができる。
3．各自の研究テーマに即した方法論を展開できる。
4．各自の研究テーマに即した論文作成を進めることができる。
5．各自の研究テーマについて、簡潔明瞭にプレゼンテーションすることができる。

＜春期＞		＜秋期＞	
1	修士論文作成に関する総合ガイダンス	1	後期ガイダンスと後期の達成目標について
2	２年間のカリキュラムと見通しについて	2	研究実施にかかわる倫理的問題の吟味
3	１年次の見通しと達成目標について	3	研究デザインの発表(1)：予備的検討
4	研究課題の発表(1)：問題点、課題の探求	4	研究デザインの発表(2)：問題点の吟味
5	研究課題の発表(2)：課題の絞り込み	5	研究デザインの吟味(1)：概念モデルの提示
6	データベースの利用法、論文検索方法を学ぶ	6	研究デザインの吟味(2)：分析モデルの検討
7	研究課題に関わる文献検索	7	研究デザインの発表と吟味(1)：倫理的検討
8	先行研究論文の輪読と討論(1)	8	研究デザインの発表と吟味(2)：調査票原案
9	先行研究論文の輪読と討論(2)	9	予備調査の実施(1)：対象・方法の確認
10	研究の進捗状況確認(1)：文献整理	10	予備調査の実施(2)：実施依頼と結果回収
11	研究の進捗状況確認(2)：テーマ確認	11	予備調査結果の吟味と討論(1)：素データ
12	関連文献の発表と討論(1)：テーマとの関連づけ	12	予備調査結果の吟味と討論(2)：分析手法
13	関連文献の発表と討論(2)：テーマの確認	13	中間発表にむけた研究デザインの吟味
14	研究テーマの絞り込み	14	中間発表にむけた研究デザインの修正
15	前期のまとめ	15	中間発表にむけた研究デザインの確認

履修上の注意

学術的意義とともに人びとの福祉に貢献するという問題意識を持って、主体的に研究に取り組むことが求められる。

評価方法

課題への主体的取り組みとその内容について評価する。

テキスト

研究内容、研究の進捗状況に応じて紹介する

特別課題研究Ⅰ　　小山　望

授業概要

現代社会における臨床心理学の諸問題（アイデンティティの拡散、ひきこもり、人間関係の希薄化）について学んだのちに、自分の研究テーマを主として文献的な資料をもとに探索する。文献探索の方法・レジメ作成・発表・ディスカッションの流れのなかで研究能力を身につける。さらに自分の研究テーマの発表、ディスカッションを通じて研究計画や研究方法を検討する。研究方法として行動観察法（フィールドワーク）やインタビュー面接法、アンケート調査法などを学びながら、デザイン発表や中間報告に向けて、研究計画・方法を吟味し、予備調査を実施するなどの指導をする。

授業計画

到達目標

１．各自の研究テーマに関した文献検索ができる。
２．各自の研究テーマに関した先行研究をレビューし、テーマを深めることができる。
３．各自の研究テーマに合致した研究方法論を駆使することができる
４．各自の研究テーマに関して論文作成を適切に進めることができる。
５．各自の研究テーマを適切に発表できる。

＜前期＞		＜後期＞	
1	修士論文に関するガイダンス	1	後期のガイダンス
2	２年間のカリキュラムの見通しについて	2	研究実施に関わる倫理的問題
3	現代社会における臨床的問題（1）	3	研究デザインの発表（1）予備的検討
4	現代社会における臨床的問題（2）	4	研究デザインの発表（2）問題点の整理
5	研究課題の発表（1）問題点・課題の探求	5	研究デザインの検討（1）
6	研究課題の発表（2）問題点・課題の探求	6	研究デザインの検討（2）
7	先行研究の文献探索とその方法	7	研究デザインの発表と検討（1
8	研究課題に関する国内外の文献購読（1）	8	研究デザインの発表と検討（2）
9	研究課題に関する国内外の文献購読（2）	9	予備調査の実施（1）
10	研究課題に関する国内外の文献購読（3）	10	予備調査の実施と検討（2）
11	研究課題に関する国内外の文献購読（4）	11	予備調査実施と検討（3）
12	研究の進捗状況の確認（1）文献整理	12	中間発表に向けた発表資料作成
13	研究の進捗状況の確認（2）	13	中間発表に向けた発表練習
14	研究課題の発表と討議（1）	14	中間発表の総括（今後の課題）
15	研究課題の発表と討議（2）	15	研究倫理申請書類作成（1）
16	前期のまとめ、今後の課題	16	研究倫理申請書類作成（2）

履修上の注意

自ら積極的に研究に取り組むこと。

評価方法

研究に関する意欲・態度、発表資料の作成や発表内容などを評価する

テキスト

適宜配付資料を用意する

特別課題研究Ⅰ　　杉山　雅宏

授業概要

各自の研究テーマを吟味しながら、文献を踏まえて研究計画を作成します。その上で、各自の研究テーマを決定していきます。研究テーマに沿って、先行研究の成果を検討します。さらに、研究テーマを絞り込み、中間発表にむけて、研究計画・方法について議論を深め、予備調査を実施します。そこから、今後の課題を明確にし、より妥当な研究計画を立てられるように指導していきます。

授業計画

到達目標

1. 各自の研究テーマに関連した適切な文献検索ができる。
2. 先行研究と関連付けて、研究テーマを深めることができる。
3. 研究テーマに即した研究計画、研究方法を確立できる。
4. 研究テーマについて、適切にプレゼンテーションすることができる。

＜前期＞		＜後期＞	
1	前期ガイダンス	1	後期ガイダンス
2	修士論文作成までの見通しについて	2	研究実施に関する倫理的問題について
3	1年次の見通し・目標設定	3	研究デザインの発表１（予備的検討）
4	研究関心領域の確認	4	研究デザインの発表２（問題点の検討）
5	研究関心領域の絞り込み	5	研究デザインの吟味１
6	文献検索について	6	研究デザインの吟味２
7	文献発表・議論１（明らかになっていることの整理）	7	研究デザインの発表・検討１
8	文献発表・議論２（未解決な問題の整理）	8	研究デザインの発表・検討２
9	文献発表・議論 3（オリジナルな研究を構想する）	9	研究デザインの発表・検討３
10	研究テーマの検討１（研究課題の探索）	10	予備調査の実施１
11	研究テーマの検討２（研究課題の特定）	11	予備調査の実施２
12	研究テーマの発表Ⅰ（研究テーマの吟味）	12	予備調査の吟味１
13	研究テーマの発表２（研究テーマの修正）	13	予備調査の吟味２
14	研究テーマの発表３（研究テーマの確認）	14	予備調査結果をもとにした研究計画の検討
15	進捗状況の確認・問題点の確認	15	中間発表に向けて
16	前期のまとめ	16	後期のまとめ

履修上の注意

日ごろから研究に関連する資料を読み、まとめておくようにしてください。また、議論だけで終わらずに文書の形にまとめるようにしてください。

評価方法

研究に対する意欲・態度、作成した資料、発表内容などで評価します。

テキスト

必要な文献については適宜、紹介します。

特別課題研究Ⅰ　　藤枝　静暁

授業概要

今日における心理臨床を中心とした課題を概観し、自分の興味関心を広げるとともに、問題の所在と研究テーマを明らかにする。研究テーマに則した研究計画および研究方法を立案する。そのために、国内外の先行研究の収集、先行研究のレビューを通じてこれまでの成果と今後の課題の明確化、研究上の倫理的配慮などへの理解を深める。

中間発表に向けて、先行研究のレビューの増強、研究計画と研究方法の精度の向上、必要に応じて予備的研究を実施する。全員が発表と討論に参加し、プレゼンテーション力やクリティカルな読解力や思考力を獲得できるよう指導する。

授業計画

到達目標

1．研究テーマに即した文献検索が適切にできる。
2．先行研究の成果と課題を踏まえて、研究テーマを明確化させることができる。
3．研究テーマに沿った研究計画および研究方法を確立することができる。
4．研究テーマに沿った論文作成能力を獲得することができる。

＜春期＞		＜秋期＞	
1	修士論文作成に関する総合ガイダンス	1	第１回　後期ガイダンスと後期の達成目標について
2	２年間のカリキュラムと見通しについて	2	アンケート調査の実施、被験者への依頼などにおける倫理的配慮と注意点
3	１年次の見通しと達成目標について	3	研究目的の立案①：予備的検討
4	研究テーマの立案①：教育分野に関する最近の課題と心理臨床の貢献	4	研究目的の立案②：問題と目的の明確化
5	研究テーマの立案②：福祉分野に関する最近の課題と心理臨床の貢献	5	研究方法の立案①：既存の概念モデルの提示
6	研究テーマの立案③：医療分野に関する最近の課題と心理臨床の貢献	6	研究方法の立案②：研究方法の検討
7	論文検索データベースの利用方法、論文検索方法を学ぶ	7	研究方法の立案③：仮説と分析方法の検討
8	研究テーマに関わる学術論文の検索と収集①：日本語文献を中心に	8	研究方法の立案④：倫理的検討
9	研究テーマに関わる学術論文の検索と収集②：英語文献を中心に	9	予備調査の依頼対象、依頼方法、調査内容の発表と検討
10	教育分野に関連した先行研究の発表と討論	10	予備調査の依頼対象、依頼方法、調査内容の確認
11	福祉分野に関連した先行研究の発表と討論	11	予備調査の実施
12	医療分野に関連した先行研究の発表と討論	12	予備調査の結果回収と分析
13	研究テーマの絞り込み	13	予備調査結果の検討
14	研究を行う上での倫理的配慮	14	予備調査で得られた成果のまとめ
15	前期のまとめと研究進捗状況の確認	15	第１回中間発表にむけた研究計画の吟味と修正

履修上の注意

学術的な意義および教育・福祉・医療の臨床現場における実践力を向上させることを念頭に置きながら主体的かつ意欲的に研究に取り組むこと。

評価方法

課題への主体的取り組みとその内容について評価する。

テキスト

研究内容、研究の進捗状況に応じて紹介する。

特別課題研究Ⅰ　古澤　照幸

授業概要

人間の社会的行動に影響を与える諸要因を探り出し、理解を深め、研究を進めるための関係文献を紹介する。文献をもとにしつつ、議論を通して諸要因を確認しつつ、論文作成の方向性を確定する。テーマは教育、福祉、医療を含む社会的行動に関わるものとし、社会心理学的方法による研究を中心とする。中間発表に向け、研究計画を検討し、予備調査を実施することにより、課題を発見し、妥当な研究計画の作成を行っていけるように指導する。

授業計画

到達目標

1. 研究テーマから適切な課題を導き出せる。
2. 研究テーマに適合する文献検索、収集ができる。
3. 先行研究を研究テーマのために利用し、研究テーマを深めることができる。
4. 研究テーマや予備調査の方法・結果を効果的にプレゼンテーションすることができる。

＜春期＞		＜秋期＞	
1	指導方針の説明、指導教員の研究紹介	1	秋期ガイダンスと研究計画の作成について
2	修士論文完成までのプロセスの説明	2	研究計画の検討①（研究計画ドラフト確認）
3	通年を通しての目標の設定	3	研究計画の検討②（問題点の抽出）
4	受講生の研究関心の発表①（研究関心の確認）	4	研究計画の検討③（研究計画の修正）
5	受講生の研究関心の発表②（関心領域の実現性の検討）	5	研究計画の検討④（倫理的検討と調査項目内容の検討）
6	文献検索指導	6	予備調査の計画①(調査方法と対象の確認)
7	研究テーマの検討①（課題の探索）	7	予備調査の計画②（調査項目に適合する質問項目の作成）
8	研究テーマの検討②（課題の特定）	8	予備調査実施①（調査実施、データ回収、データ入力法の確認）
9	研究テーマに関連した文献についての院生による発表と議論①	9	予備調査実施②(入力データの分析法の確認)
10	研究テーマに関連した文献についての発表と議論②	10	予備調査データの分析ならびに修士論文作成計画書の作成準備①（分析結果の確認）
11	研究テーマに関連した文献についての発表と議論③	11	予備調査データの分析ならびに修士論文作成計画書の作成準備②（分析結果から修士論文の方向性の確認）
12	文献の発表と議論を踏まえての研究テーマの絞り込み	12	予備調査の発表と議論①（本調査実施時の必要項目の検討）
13	テーマ絞り込みによる必要な文献の検討	13	予備調査の発表と議論②（本調査実施時の起こり得る問題の検討）
14	進捗の確認	14	中間発表に向けての研究計画の検討
15	春期のまとめ	15	全体的なまとめ

履修上の注意

最終的な目標は、修士論文の作成である。研究の社会的意義も意識しつつ、問題意識を常にもち、何を明らかにしたいのか、何を検証したいのかを明確にして、履修することを期待する。

評価方法

授業の積極的な参加度、発表時のレジュメ内容、発表、議論の程度ならびに日常の研究姿勢を総合的に評価する。

テキスト

必要な文献については、適宜紹介する。

特別課題研究Ⅰ　　佐々木　美恵

授業概要

興味・関心のある研究課題領域の先行研究をレビューし、研究課題の具体化を図る。先行研究のレビューを進めながら、自らの研究の位置づけを図り、実行可能な研究デザイン立案に向けて考えを進める。先行研究のレビューを進めながら研究デザインの具体化を図り，この段階で予備調査を実施し、本調査へと向けたデータ、資料を得ることを目指す。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
1	研究課題についての討論	1	研究デザインの構想/先行研究レビューに基づく討論⑤
2	研究課題の具体化/先行研究レビューに基づく討論①	2	研究デザインの構想/先行研究レビューに基づく討論⑥
3	研究課題の具体化/先行研究レビューに基づく討論②	3	研究デザインの構想/先行研究レビューに基づく討論⑦
4	研究課題の具体化/先行研究レビューに基づく討論③	4	研究デザインの構想/先行研究レビューに基づく討論⑧
5	研究課題の具体化/先行研究レビューに基づく討論④	5	研究デザインの立案/先行研究レビューに基づく討論①
6	研究課題の具体化/先行研究レビューに基づく討論⑤	6	研究デザインの立案/先行研究レビューに基づく討論②
7	研究課題の具体化/先行研究レビューに基づく討論⑥	7	研究デザインの立案/先行研究レビューに基づく討論③
8	研究課題の具体化/先行研究レビューに基づく討論⑦	8	研究デザインの立案/先行研究レビューに基づく討論④
9	研究課題の具体化/先行研究レビューに基づく討論⑧	9	研究デザインの立案/先行研究レビューに基づく討論⑤
10	研究課題の具体化/先行研究レビューに基づく討論⑨	10	予備調査準備および討論①
11	研究課題の具体化/先行研究レビューに基づく討論⑩	11	予備調査準備および討論②
12	研究デザインの構想/先行研究レビューに基づく討論①	12	予備調査準備および討論③
13	研究デザインの構想/先行研究レビューに基づく討論②	13	予備調査準備および討論④
14	研究デザインの構想/先行研究レビューに基づく討論③	14	予備調査実施/データの分析と討論①
15	研究デザインの構想/先行研究レビューに基づく討論④	15	予備調査実施/データの分析と討論②

履修上の注意

自ら主体的，積極的に取り組むこと。

評価方法

研究デザイン立案の到達度によって評価する。

テキスト

とくに使用しない。適宜紹介する。

特別課題研究Ⅰ　　羽鳥　健司

授業概要

明らかにしたい臨床心理学的な現象を特定し、おおまかな研究テーマを決定できるように指導する。次に、関連する最新の先行研究をレビューし、研究テーマとの関係性を検討させる。さらに、議論を通して詳細な研究テーマを決定し、測定や分析の方法も含めて、研究全体の計画を立て、予備調査を実施するよう指導する。その後も、引き続き、必要な先行研究のレビューを行い、指導する。

授業計画

到達目標

1．究明したい現象を臨床心理学的に位置づける能力を身につける。
2．研究テーマに関連する先行研究を検索し、研究テーマとの異動を検討することができる。
3．研究テーマを表現するための方法論を身につける。
4．研究テーマを論理的に論述し、論文を作成することができる。
5．研究テーマをプレゼンテーションすることができる。

＜春期＞		＜秋期＞	
1	修士論文作成の概要	1	授業のガイダンスと後期の到達目標の説明
2	修士論文完成までの見通しについて	2	研究の実施に関連する倫理的配慮について
3	１年次の到達目標に関する説明	3	研究計画の発表（1）：到達点の確認
4	各自の研究テーマの発表（1）：	4	研究計画の発表（2）：問題点の検討
5	各自の研究テーマの発表（2）：テーマの絞り込み	5	研究計画の発表（3）：研究目的について
6	先行研究の検索方法を学習する。	6	研究計画の発表（4）：方法論について
7	各自のテーマに関連する先行研究の検討（1）：歴史的に重要な文献を中心に	7	研究計画の発表（5）：概念モデルの検討
8	各自のテーマに関連する先行研究の検討（2）：最新の研究を中心に	8	研究計画の発表（6）：実験計画の策定
9	先行研究と各自のテーマとの関連について（1）：相違点の検討	9	研究計画の発表（7）：分析方法の検討
10	先行研究と各自のテーマとの関連について（2）：類似点の検討	10	研究計画の発表（8）：予備データ取得の依頼と回収
11	研究の進捗状況確認（1）：研究テーマの吟味	11	予備調査の実施と結果の発表（1）：取得した予備データの検討と入力
12	研究の進捗状況確認（2）：研究テーマの修正	12	予備調査の実施と結果の発表（2）：予備分析結果の発表
13	研究の進捗状況確認（3）：研究テーマの確認	13	中間発表にむけて（1）：デザイン修正個所の確認
14	研究テーマの絞り込み	14	中間発表にむけて（2）：デザインの修正
15	前期のまとめ	15	後期のまとめ

履修上の注意

各自の関心のみに基づいた研究を行うのではなく、実施する研究の学術的および社会的意義がどのようなものなのかを常に意識し、研究参加者の利益が守られるよう謙虚な姿勢で研究に取り組むことが求められる。

評価方法

研究課題への積極的な取り組み、およびその内容について評価する。

テキスト

適宜紹介する

特別課題研究Ⅱ　　小玉　正博

授業概要

中間発表において客観的評価を受け、同時に新たに明らかにされた課題についての解決を通して、より高度な研究展開と完成を目指す。

予備調査、本調査などによって収集された資料の分析の方法、視点を提示・討論しながら、策定された研究課題の達成状況を確認し、修士論文の完成を目指した指導をする。

授業計画

到達目標

1．各自の研究課題に即した研究計画が策定出来る。
2．各自の研究課題に即した計画を実施することができる。
3．各自の実施した研究課題について適切な分析を行い、論文を作成することができる。
4．各自の研究課題について適切にプレゼンテーションすることができる。

＜春期＞		＜秋期＞	
1	修士論文作成に関する総合ガイダンス	1	後期ガイダンスと後期の達成目標について
2	第１回中間発表に向けた研究デザインの確認	2	本調査結果と分析と考察の討論(1)
3	第 1 回中間発表の予演と討論(1)：問題の確認と修正	3	本調査結果と分析と考察の討論(2)
4	第１回中間発表の予演と討論(2)：再確認	4	第２回中間発表の予演と討論(1)
5	中間発表の評価と本調査の研究計画の発表	5	第２回中間発表の予演と討論(2)
6	本調査の研究計画の吟味(1)：目的の確認	6	修士論文のプロット作成と課題の吟味
7	本調査の研究計画の吟味(2)：方法の確認	7	修士論文のプロットの修正と吟味
8	本調査の研究計画の吟味(3)：結果分析の確認	8	論文ドラフトの作成：序論
9	本調査の研究計画の吟味(4)：倫理的検討	9	論文ドラフトの作成：目的と方法
10	研究進捗状況に関する中間総括	10	論文ドラフトの作成：結果と考察
11	本調査の実施報告(1)：データの確認	11	論文ドラフトの作成：全体の吟味
12	本調査の実施報告(2)：要約の作成	12	修士論文発表の予演(1)：プロット作成
13	本調査結果のデータ分析(1)：素データ	13	修士論文発表の予演(2)：プロットの修正
14	本調査結果のデータ分析(2)：分析モデル	14	修士論文発表と質疑応答
15	前期のまとめと研究進捗状況の確認	15	まとめと今後の課題の確認

履修上の注意

計画に沿って着実に研究を進めること。また、学術的意義とともに人びとの福祉に貢献するという問題意識を持って、主体的に研究に取り組む態度が求められる。

評価方法

論文作成へ取り組む姿勢、意欲、態度、進度状況に加えて、修士論文の完成度によって評価する。

テキスト

研究内容、研究の進捗状況に応じて紹介する

特別課題研究Ⅰ　　小山　望

授業概要

中間発表において指摘され検討を要する課題について精査して、本調査・本研究に向かって準備・検討を行う。本調査の実施を行い、得られたデータや資料をもとに、ディスカッションと分析を加えて研究報告をまとめる。修士論文の完成にむけて調査データや観察データの考察を行い、論文としての完成度をあげるよう指導する。

授業計画

到達目標

１．各自の研究課題に関した研究計画を作成することができる。
２．各自の研究課題に関した研究計画を実施することができる。
３．各自の実施した研究課題について適切な分析を行い、論文を完成することができる。
４．各自の研究課題について適切に発表をおこなうことができる。

＜前期＞		＜後期＞	
1	修士論文ガイダンス	1	後期修士論文ガイダンス
2	第１回中間発表に向けて研究計画の検討	2	本調査の結果と考察（１）
3	中間発表の予行演習（プレゼンテーション）と検討（１）	3	本調査の結果と考察（２）
4	中間発表の予行演習（プレゼンテーション）と検討（２）	4	本調査の結果と考察（３）
5	中間発表の結果の検討	5	本調査の結果と考察（４）
6	本調査の研究計画の検討（１）	6	学会研究発表準備（１）
7	本調査の研究計画の検討（２）	7	学会研究発表準備（２）
8	研究倫理申請書類作成	8	第２回中間発表準備（１）
9	本調査の実施と報告（１）	9	第２回中間発表準備（２）
10	本調査の実施と報告（２）	10	第２回中間発表練習
11	本調査の実施と報告（３）	11	中間発表総括
12	本調査の実施と報告（４）	12	修士論文指導（１）
13	本調査のデータ分析と討論（１）	13	修士論文指導（２）
14	本調査のデータ分析と討論（２）	14	修士論文発表審査会に向けた指導（１）
15	本調査のデータ分析と討論（３）	15	修士論文発表審査会に向けた指導（２)）
16	研究の進捗状況の確認	16	修士論文完成

履修上の注意

修士論文の完成にむけて自主的に取り組み、研究の楽しさ、知る、調べる、喜びを経験する。

評価方法

修士論文の取り組む意欲・態度、修士論文の内容などを総合的に評価する

テキスト

適宜　資料を配布する

特別課題研究Ⅱ　　杉山　雅宏

授業概要

中間発表により明らかになった課題や問題点を吟味し、より高度な研究へと発展できるように導きたいと考えております。収集したデータの分析や検討を重ねる中で、より精度の高い修士論文を完成するようにしたいと考えております。

授業計画

到達目標

1. 研究課題に即して、適切な研究計画を立てることができる。
2. 中間発表を適切に行い、課題や問題点を把握することができる。
3. 適切な倫理的配慮のもと、研究を実行することができる。
4. 得られた研究結果をもとに、修士論文としてまとめることができる。
5. 修士論文について、適切なプレゼンテーションをすることができる。

＜前期＞		＜後期＞	
1	前期ガイダンス	1	後期ガイダンス
2	修士論文作成までの見通しについて	2	本調査の結果・分析・考察（１）
3	中間発表リハーサル（問題・仮説等検討）	3	本調査の結果・分析・考察（２）
4	中間発表リハーサル（結果の予測等）	4	本調査の結果・分析・考察（３）
5	中間発表の振り返り	5	中間発表に向けて（1）
6	研究の方向性の再確認	6	中間発表に向けて（1）
7	本調査研究目的の検討	7	中間発表の振り返り
8	本調査研究方法の検討	8	修士論文目次の検討、討論
9	本調査分析方法の検討	9	修士論文原稿の検討（問題・目的）
10	本調査の結果予測	10	修士論文原稿の検討（結果）
11	本調査の実施（1）	11	修士論文原稿の検討（考察）
12	本調査の実施（2）	12	修士論文発表のリハーサル（1）
13	本調査の実施（3）	13	修士論文発表のリハーサル（2）
14	進捗状況の確認	14	修士論文発表・質美応答
15	まとめ	15	まとめ

履修上の注意

主体的かつ意欲的に研究活動に取り組むようにしてください。

評価方法

・修士論文作成に対する意欲・態度、作成した資料、発表内容などを評価します。

テキスト

必要な文献については適宜、紹介します。

特別課題研究Ⅱ　　藤枝　静暁

授業概要

中間発表をおこない、他者からの評価・指摘・意見を踏まえて、研究計画および研究方法の再検討および修正をおこない、より高度な研究を目指す。

予備研究、本研究で収集した資料、データを分析し、その結果を目的・仮説と照らしながら、発表および討論を繰り返しながら考察を深めていく。自分の研究について、先行研究に対する研究成果と新たな知見、および、今後の課題を明確にし、修士論文の完成を目指して指導する。

授業計画

1．中間発表を行い、質疑に対して適切に応答することができる。
2．中間発表での意見や指摘を踏まえて、研究計画の精度を高めることができる。
3．倫理的配慮を満たした上で、研究計画を実行することができる。
4．得られた研究結果を適切に分析し、結果の解釈をおこない、論文としてまとめることができる。
5．中間発表や修士論文発表において、自分の研究を適切にプレゼンテーションすることができる。

＜春期＞		＜秋期＞	
1	修士論文作成に関する総合ガイダンス	1	後期ガイダンスと後期の達成目標について
2	第１回中間発表に向けた研究計画の確認	2	本調査結果の分析と考察の討論①：分析結果
3	第１回中間発表のリハーサルと討論①：問題、目的、仮説の確認と修正	3	本調査結果の分析と考察の討論①：考察
4	第１回中間発表のリハーサルと討論②：分析方法、結果の予測、考察の視点の確認と修正	4	第２回中間発表のリハーサルと討論
5	第１回中間発表と質疑応答	5	第２回中間発表と質疑応答
6	本調査の研究計画の吟味①：問題と目的の確認	6	修士論文プロット作成
7	本調査の研究計画の吟味②：方法の確認	7	修士論文のプロットの修正
8	本調査の研究計画の吟味③：分析方法の確認	8	修士論文の原稿作成①：序論
9	本調査の研究計画の吟味④：倫理的配慮の検討	9	修士論文の原稿作成②：問題、目的、仮説、方法
10	研究進捗状況の中間総括	10	修士論文の原稿作成①：結果と考察
11	本調査の実施の報告①：実施状況や回収率の報告	11	修士論文の原稿作成①：全体の吟味
12	本調査の実施の報告②：データの確認と要約	12	修士論文発表のリハーサル①：プロットの作成
13	結果の分析①：素データ	13	修士論文発表のリハーサル②：プロットの修正
14	結果の分析②：分析モデル	14	修士論文発表と質疑応答
15	前期のまとめと研究進捗状況の確認	15	まとめと今後の課題の確認

履修上の注意

研究計画に沿って、地道に研究を進めること。研究を通じて、教育・福祉・医療おける現場の発展と課題の解決に貢献するという意識を常に念頭に置きながら、主体的かつ意欲的に研究活動に取り組むこと。

評価方法

修士論文作成へ取り組む姿勢、意欲、態度に加えて、完成した修士論文の完成度によって評価する。

テキスト

研究内容、研究の進捗状況に応じて紹介する。

特別課題研究Ⅱ　古澤　照幸

授業概要

年間を通しての指導、ならびに中間発表における指導によって明確になった課題を解決し、より高度な研究へと発展をさせる。予備調査、本調査を通して、調査の企画、実施から発表までの研究の全過程を専門的に高いレベルで経験させるようにする。研究の方向性を常に確認しつつ、調査方法や分析の視点の提示や議論を行うことによって、修士論文の完成を目標とした指導を行う。

授業計画

到達目標

1. 研究課題に適合した研究計画が策定できる。
2. 研究課題を解決するためのデータ解析を適切に処理できる。
3. 高い論理的な構成力によって、論文を作成することができる。
4. 修士論文について説得性・納得性の高い効果的なプレゼンテーションができる。

＜春期＞		＜秋期＞	
1	修士論文に関する総合ガイダンス	1	修士論文作成に向けてのガイダンス
2	研究計画の発表	2	本調査分析結果と考察の検討①（先行研究と結果の検討）
3	第１回中間発表予行演習①（発表内容の確認と修正）	3	本調査分析結果と考察の検討②（考察のシナリオの検討）
4	第１回中間発表予行演習②（内容確定）	4	第２回中間発表予行演習①（発表内容の確認と修正）
5	本調査の計画①（調査対象者、調査変数の確認）	5	第２回中間発表予行演習②（内容確定）
6	本調査の計画②（分析案作成；全体的な分析の流れ）	6	第２回中間発表評価を踏まえての議論
7	本調査の計画③（分析案作成；詳細分析案）	7	修士論文構成案（目次）の作成と議論
8	本調査の計画④（計画の修正）	8	修士論文草稿の作成①（序論）
9	本調査の実施と分析案修正①（詳細分析案の修正）	9	修士論文草稿の作成②（目的と方法）
10	本調査の実施と分析案修正②（詳細分析案確定）	10	修士論文草稿の作成③（結果）
11	本調査の分析結果の討論①（結果の検討）	11	修士論文草稿の作成④（考察）
12	本調査の分析結果の討論②（追加分析案の検討	12	修士論文発表の予行演習①（発表内容の確認と修正）
13	本調査の分析結果の討論③（追加分析の検討）	13	修士論文発表の予行演習②（内容確定）
14	本調査の分析結果の討論④（考察に向けての討論）	14	修士論文発表と質疑応答
15	進捗確認と春期まとめ	15	修士論文の全体的なまとめと展望

履修上の注意

研究の学術的意義を意識し、社会的な貢献も考慮しつつ、主体的に研究の完成を目指すように努力することを期待する。

評価方法

出席、意見等の参加性の程度、発表会における発表の仕方、修士論文の完成度によって評価する。

テキスト

必要な参考文献は適宜、紹介する。

特別課題研究Ⅱ　　佐々木　美恵

授業概要

前半は、研究計画を策定し、調査準備・実施に向けて指導する。後半は、調査により得られたデータを分析し，研究としての形式，構成を踏まえた上で，修士論文完成に向けて指導する。

授業計画

＜前期＞		＜後期＞	
1	予備調査準備①	1	本調査実施/データの分析と討論⑥
2	予備調査準備②	2	本調査実施/データの分析と討論⑦
3	予備調査準備③	3	本調査実施/データの分析と討論⑧
4	予備調査実施/データの分析と討論①	4	本調査実施/データの分析と討論⑨
5	予備調査実施/データの分析と討論②	5	本調査実施/データの分析と討論⑩
6	予備調査実施/データの分析と討論③	6	修士論文執筆および討論/目次，構成
7	本調査準備および討論①	7	修士論文執筆および討論/序論①
8	本調査準備および討論②	8	修士論文執筆および討論/序論②
9	本調査準備および討論③	9	修士論文執筆および討論/目的
10	本調査準備および討論④	10	修士論文執筆および討論/方法
11	本調査実施/データの分析と討論①	11	修士論文執筆および討論/結果
12	本調査実施/データの分析と討論②	12	修士論文執筆および討論/考察①
13	本調査実施/データの分析と討論③	13	修士論文執筆および討論/考察②
14	本調査実施/データの分析と討論④	14	修士論文執筆および討論/結論
15	本調査実施/データの分析と討論⑤	15	まとめ/課題研究総括と今後の研究課題展望

履修上の注意

自ら主体的，積極的に取り組むこと。

評価方法

修士論文の完成度によって評価する。

テキスト

とくに使用しない。適宜紹介する。

特別課題研究Ⅱ　　羽鳥　健司

授業概要

中間発表において受けた指導により明らかになった課題の修正を行い、研究を発展させ、修士論文の到達点を決定し、データの収集を行う。次に、収集したデータの分析方法や、検討する現象の理論的な位置づけ等に関する最終的な確認を行い、修士論文を作成するよう指導する。

授業計画

到達目標

1．研究課題を明確にし、課題に到達するための計画を立てることができる。
2．研究課題を達成するための方法を検討し、実施することができる。
3．研究課題に即した分析を実施し、修士論文を作成することができる。
4．作成した修士論文に基づいて、明瞭簡潔にプレゼンテーションすることができる。

＜春期＞		＜秋期＞	
1	修士論文作成に向けた総合ガイダンス	1	後期の達成目標に関するガイダンス
2	各自の研究計画の発表	2	各自の経過報告
3	第１回中間発表の発表練習（１）：研究目的と方法の確認	3	第２回中間発表の発表練習：グループ（１）
4	第１回中間発表の発表練習（２）：分析方法と結果の確認	4	第２回中間発表の発表練習：グループ（２）
5	中間発表の評価の吟味	5	中間発表の評価と分析方法や研究意義の調整
6	研究の方向性に関する最終的な確認	6	修士論文の現実的な到達点の吟味（１）：分析手法の確認
7	本調査の実施計画の発表と討議（１）：研究目的の吟味	7	修士論文の現実的な到達点の吟味（２）：分析結果の確認
8	本調査の実施計画の発表と討議（２）：研究方法の吟味	8	修士論文草稿の作成（１）：要約の作成
9	本調査の実施計画の発表と討議（３）：分析手法の吟味	9	修士論文草稿の作成（２）：問題と目的
10	本調査の実施計画の発表と討議（４）：結果の予測	10	修士論文草稿の作成（３）：方法と結果
11	本調査の実施（１）：倫理的配慮の確認	11	修士論文草稿の作成（４）：結果と考察
12	本調査の実施（２）：ローデータ取得と入力	12	修士論文発表の予行演習（１）：プレゼンテーション方法の確認
13	本調査の実施（３）：分析結果の報告	13	修士論文発表の予行演習（２）：全体の確認
14	研究進捗状況に関する総合的な評価	14	修士論文発表と質疑応答
15	前期のまとめ	15	修士論文のまとめ

履修上の注意

特別課題研究Ⅰで習得した修士論文作成のための方法論を駆使して、データ収集や分析等の実務的な学習が中心となる。課題作成に向けて、これまで以上に自発的な態度が求められる。

評価方法

研究課題への積極的な取り組み、およびその内容について評価する。

テキスト

適宜紹介する。